

12-14right

専勝院殿、浄空院殿、年回逮夜にて叔母より菓一折伝へらる、右に付牡丹糕(*1)を製し叔母並常司方奴婢までへ□せしめ、先祖代々並前二位読経の為村内寺□施餓鬼(*2)□し序を以回向を頼み料銀を投す、叔母を招き夕膳を勧む、仙爺方より茗荷少許□越す

廿三日亥 雲卷舒(*3)

順?司方より施餓鬼(*2)に付ては赤飯贈らる、叔母より小海老等一皿贈らる

廿四日子 晴

善福寺上人来る、常司より蜀黍(もろこし)七数?を贈らる

廿五日丑 雲午下雨意

隠居、常司方より大あんこう半尾贈らる

12-14left

廿六日寅 雲漸(ようやく)晴

常司方六?女兒の病を訪ひ手製□葛糕(*1)を遣す

廿七日卯 薄晴

義雄世禄受取方廻状昨夕到来に付、今朝右受取の者出す、常司方幸便□□を頼む
常司並六?兒の病を問ひ、こち一尾を遣す、常奴母初て来り、隠元豆少許持来、手拭
鼻紙等遣す

廿八日辰 深霧朝□晴 無記事 常司方より手製豆婦を贈らる

廿九日巳 陰漸晴 無記事

晦日午 晴

*1: 糕(こう)糯・葛餅(くずもち)

*2: 施餓鬼(せがき)、餓鬼に施しを行う法要

*3: 卷舒(けんじょ)、雲が広がったり、集まったりすること

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読はできません。